

歯科受診の際もおくすり手帳を忘れずに！



歯科治療を受ける際、注意を要する薬剤があります。

患者さんご自身が内服している薬剤を正確に歯科医師に伝えることはとても重要です。

治療に配慮が必要なものや、薬の影響で不具合が起こっている場合もあります。

対処が難しい場合は主治医と相談の上、減薬や薬剤変更の必要がある場合もありますので、安全な歯科治療を受けるため、受診時にはおくすり手帳を活用し、服用している薬についてきちんと伝えましょう。

また自己判断で服薬を中止せず、必ず主治医の判断を仰いでください。



① 顎骨壊死の危険のあるもの

代表的な薬剤

分類	一般名	剤形	主な商品名	適応症
B P 製剤	アレンドロン酸ナトリウム	内服	フォサマック ボナロン	骨粗鬆症
		注射	ボナロン	
		注射	テイロック	悪性腫瘍
	イバンドロン酸ナトリウム	注射	ボンビバ	骨粗鬆症
	エチドロロン酸二ナトリウム	内服	ダイドロネル	骨粗鬆症
	ゾレドロロン酸	注射	ゾメタ	悪性腫瘍
	パミドロロン酸二ナトリウム	注射	アレディア	悪性腫瘍
	ミノドロロン酸	内服	ボノテオ リカルボン	骨粗鬆症
リセドロロン酸ナトリウム	内服	アクトネル ベネット	骨粗鬆症	
ヒト型抗体製剤	デスノマブ	注射	ランマーク	悪性腫瘍
		注射	プラリア	骨粗鬆症
副甲状腺ホルモン剤	テリパラチド	注射	フォルテオ	骨粗鬆症
	テリパラチド酢酸塩	注射	テリボン	骨粗鬆症

② 出血のリスクの伴うもの

患者さんの自己判断での休薬は血栓塞栓症を誘発する可能性が高まるため避けてください。

局所止血処置だけで止血可能な症例がほとんどですので、適切な処置のためにも必ず服用している薬を伝えましょう。

代表的な薬剤

分類	一般名	主な商品名
抗凝固薬	ワルファリンカリウム	ワーファリン
	ダビガトラン	プラザキサ
	リバーロキサバン	イグザレルト
	アピキサバン	エリキューズ
	エドキサバント	リクシアナ
抗血小板薬	チクロピジン塩酸塩	パナルジン
	アスピリン	バイアスピリン・アスピリン

	アスピリン・ダイアルミネート配合錠	バファリン配合錠 A81
	アスピリン・ランソプラゾール配合錠	タケルダ配合錠
	アスピリン・クロピトグレル配合錠	コンプラビン配合錠
	クロピトグレル硫酸塩	プラビックス
	シロスタゾール	プレタール
	イコサペント酸	エパデール
	サルポグレラート塩酸塩	アンプラーグ
	ベラプロストナトリウム	ドルナー
	プラスグレル	エフィエント
	ω-3 脂肪酸エステル	ロトリガ粒状カプセル
血管拡張薬	リマプロスト	オパルモン・プロレナール
冠血管拡張薬	ジピリダモール	ペルサンチン

③ その他口腔に関連した副作用を引き起こすもの

薬剤の中には口腔乾燥、咬合の違和感、顎関節痛、咀嚼障害、歯周疾患、歯痛、歯茎の腫れ（歯肉増殖）など、口腔に関連した副作用を引き起こすものがあります。副作用の症状が強く、対処が難しい場合は主治医と相談の上、減薬や薬剤変更の必要がある場合もありますので、きちんと服用している薬を伝えましょう。

代表的な薬剤

分類	代表的な薬剤	主な商品名	口腔に関連した副作用
三環系抗うつ薬	イミプラミン塩酸塩	トフラニール	口腔乾燥症
	クロミプラミン塩酸塩	アナフラニール	
	アミトリプチリン塩酸塩	トリプタノール	
カルシウム拮抗剤	ニフェジピン	アダラート	歯肉増殖
	シルニジピン	アテレック	
	アムロジピン	アムロジン	
抗けいれん薬 免疫抑制剤	フェニトイン	アレビアチン・ヒダントール	
	シクロスポリン	ネオーラル・サンディミュン	
フェノチアジン 系抗精神病薬	クロルプロマジン塩酸塩	コントミン・ウインタミン	自律神経系への影響、唾液分泌抑制に伴う、う蝕・歯周疾患
	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤	ベゲタミン	
	レボプロメタジンマレイン酸塩	レボトミン・ヒルナミン	
ブチロフェノン 系抗精神病薬	ハロペリドール	セレネース	錐体外路症（*）
	スピペロン	スピロピタン	

（*）抗精神病薬の副作用による錐体外路症状には以下のものがあります。これらは、日常生活上の問題のほか、歯科治療時に支障をきたす可能性があります。

- ・アカシジア（座ったままじっとしてられない）
- ・ジストニア（全身または身体の一部にねじれ・硬直・けいれんなどが生じる運動障害）
- ・パーキンソニズム（手足のふるえ、筋肉のこわばり、歩行障害）
- ・ジスキネジア（口や舌の異常な運動、舌のもつれ、手足が勝手に動く）
- ・薬剤性開咬（咀嚼筋の持続的収縮により噛み合わせが悪くなる）



安心・安全な治療のため、おくなり手帳を活用しましょう！